

修士学位論文

タイトル（和文）

タイトル（英文）

報告者

学籍番号：1XXXXXX

氏名：報告者の氏名

指導教員

指導教員の氏名と肩書

2023 年 11 月 27 日

高知工科大学大学院 工学研究科
基盤工学専攻 電子・光工学コース

目次

第 1 章	main_LuaTeX.tex の設定	1
1.1	ここで使用する L ^A T _E X	1
1.2	表紙の設定	1
1.3	ヘッダー・フッターの設定	2
1.4	目次の設定について	3
1.5	その他各種設定について	3
第 2 章	参考文献について	4
2.1	引用順にソート済みであることの確認	4
2.2	参考文献の設定	5
2.3	Bib ファイル編集の注意点	6
	謝辞	7
	参考文献	8
付録 A	L ^A T _E X で図を用いるときのコツ	9
付録 B	日本語文献を用いる場合	11

1.1	表紙の設定を記載する位置のスクリーンショット. <code>main_LuaTeX.tex</code> の 54 行目くらいにある.	2
1.2	ヘッダー・フッターの設定を記載した位置のスクリーンショット. <code>main_LuaTeX.tex</code> の 36 行目くらいにある.	2
1.3	ヘッダー・フッターの設定が反映された結果.	3
2.1	<code>reference.bib</code> 中にある参考文献の順番を表している図である. “PhysicsPhysiqueFizika.1.195” が “PhysRev.47.777” よりも先に書かれているが, 引用順は反対なため出力されたこの PDF 内での参考文献の順番は反対になっている. したがって, 参考文献を <code>references.bib</code> に載せる順番はまったく気にしなくてもよいことがいえる.	5
2.2	<code>main_LuaTeX.tex</code> の BibLaTeX の設定を示している. 同ファイルの 16 行目にある.	5
A.1	ステップ 3 から 7 までの過程. スクリーンショットのため見づらいが拡大表示するなどして確認して欲しい.	10
A.2	作成した PDF ファイル. 拡大しても粗くならない. Cloud LaTeX 上では日本語名 PDF はエラーになったので, <code>描画.pdf</code> → <code>picture.pdf</code> に変更. . .	10

表目次

1.1	三角関数と双曲線関数	3
-----	----------------------	---

第 1 章

main_LuaTeX.tex の設定

基本的に TeXWiki [1] や美文書作成入門 [2], main_LuaTeX.tex のコメントアウトを読めば分かるようにしているつもりである。このテンプレートは 2023 年度高知工科大学電子系の卒業論文・修士論文の要件を満たすように作成したつもりであるが、**今一度学位論文の要件を確認すること**。作成者はこのテンプレートを用いることによる不利益に関しては保証しかねるのでご容赦を。。。プリアンブルなどを調節したい場合は各自で行うこと。

本テンプレートは、ローカルでは Windows10 と Windows11 の Visual Studio Code で、オンラインでは Overleaf と Cloud LaTeX で動作実証済み (2023 年 11 月現在)。ただし、ローカルの場合は TeXLive 2023 で LaTeX をインストールすることを前提としている。TeXLive 以外に MacTeX があるらしいが詳しいことは知らない。

1.1 ここで使用する LaTeX

この LaTeX は LuaTeX-japan を採用している。LuaTeX は従来の pLaTeX とは異なり DVI ファイルを経由せずに直接 PDF を生成する。また、Unicode にも対応しており、例えば Schrödinger (シュレーディンガー) を入力する際に Schr"odinger とする必要はなくそのまま Schrödinger としてもエラーを吐かずに出力してくれる (地味にありがたい)。

1.2 表紙の設定

2023 年度高知工科大学電子系の卒業論文・修士論文の表紙と一致するようにしたつもりであるが、今一度ご自身で印刷して確認すること。もし一致していなければ cover.tex 内のファイルで表紙を制御しているので、そのプログラムで調節すること。

記載する内容は卒業論文ならば `\newcommand{\thesis}{修士学位論文}` から `\newcommand{\thesis}{学士学位論文}` のように変更すれば良い。それ以外の箇所も同様である。変更する箇所は図 1.1 の箇所である。

```

% ===== 学位論文の報告者の情報 ===== %
% -- 学位の確認 -- %
\newcommand{\thesis}{修士学位論文}
\newcommand{\dept}{高知工科大学大学院・工学研究科 \ \ 基盤工学専攻・電子・光工学コース}

% -- 報告者の情報 -- %
\renewcommand{\title}{タイトル (和文) }
\newcommand{\Etitle}{タイトル (英文) }
\newcommand{\studentID}{1XXXXXX}
\renewcommand{\author}{報告者の氏名}
\newcommand{\advisor}{指導教員の氏名と肩書}
\renewcommand{\date}{\today}
% -- 表紙の空行による幅 [ \vskip -(2つのタイトルの行数-2)x20pt ] -- %
\newcommand{\adjspace}{\vskip -0pt} % タイトルが複数行なら調節のために行間を減らす

```

図 1.1 表紙の設定を記載する位置のスクリーンショット. main_LuaTeX.tex の 54 行目くらいにある.

1.3 ヘッダー・フッターの設定

今設定しているヘッダー・フッターは、ヘッダーに下線を入れて小口にページ番号、のどに章・節を記載している. 変える箇所は図 1.2 にある. 設定したヘッダー・フッターの出力結果は図 1.3 にある.

```

% ===== ノンブル、柱の設定 ===== %
% == 目次での設定
% ヘッダーに全ての情報を載せる
\newpagestyle{headtypeTofCstyle}{
  \headrule
  \sethead[\scalebox{1.0}{\textbf{\thepage}}][[]]{
    {}{}{\scalebox{1.0}{\textbf{\thepage}}}
  }
}
% == 本文での設定
% ヘッダーに全ての情報を載せる
\newpagestyle{headtypestyle}{
  \headrule
  \sethead[\scalebox{1.0}{\textbf{\thepage}}][[第\thechapter 章 \chaptertitle]
    {\thesection\quad\sectiontitle}{}{\scalebox{1.0}{\textbf{\thepage}}}
  ]
}

```

図 1.2 ヘッダー・フッターの設定を記載した位置のスクリーンショット. main_LuaTeX.tex の 36 行目くらいにある.

図 1.3 ヘッダー・フッターの設定が反映された結果.

1.4 目次の設定について

目次と図目次, 表目次は, main_LuaTeX.tex の 76–80 行目で制御している. 図目次と表目次を入れるかは各指導教官の方々の指示に従うようにすること. 2022 年度の「卒業論文・特別研究報告の執筆要項」では図目次と表目次についての記載はないため, 不要かもしれない. 不要なら % でコメントアウトすれば良い.

1.4.1 表目次について

表 1.1 に適当な表を作成した. 表目次を確認すると表 1.1 があることが分かる.

表 1.1 三角関数と双曲線関数

三角関数	双曲線関数
$\sin(x)$	$\sinh(x)$
$\cos(x)$	$\cosh(x)$
$\tan(x)$	$\tanh(x)$

1.4.2 図目次について

図目次の動作は, 図 1.1 などを図目次と一致しているか確認すれば, それぞれ対応する図ごとにページ番号が記載されていることが分かる.

1.5 その他各種設定について

上記の表紙やヘッダー・フッター, 目次に加えて他にも, main_LaTeX.tex 内の `\graphicspath{{./figures/}}` の設定などがあるが, 細かい設定なのでここでは割愛する.

第 2 章

参考文献について

2.1 引用順にソート済みであることの確認

例えば, 「1935 年に A. Einstein らは後に量子論が不完全と主張した [3] が, 彼らの主張では実験的に検証可能でなかった. しかし, 約 30 年の月日経った 1964 年に J. S. Bell が A. Einstein らの主張が検証可能であることを示した [4].」と書いて引用するとき, 自動で引用順になる.

引用順になる理由は, `main_LuaTeX.tex` での `biblatex` パッケージの公式ドキュメント [5] を参照すること.


```

@article{PhysRev.47.777,
  title = {{Can Quantum-Mechanical Description of Physical Reality Be Considered Complete?}},
  author = {Einstein, A. and Podolsky, B. and Rosen, N.},
  journal = {Phys. Rev.},
  volume = {47},
  issue = {10},
  pages = {777--780},
  numpages = {0},
  year = {1935},
  month = {May},
  publisher = {American Physical Society},
  doi = {10.1103/PhysRev.47.777},
  url = {https://link.aps.org/doi/10.1103/PhysRev.47.777}
}

@article{PhysicsPhysiqueFizika.1.195,
  title = {{On the Einstein Podolsky Rosen paradox}},
  author = {Bell, J. S.},
  journal = {Physics Physique Fizika},
  volume = {1},
  issue = {3},
  pages = {195--200},
  numpages = {6},
  year = {1964},
  month = {Nov},
  publisher = {American Physical Society},
  doi = {10.1103/PhysicsPhysiqueFizika.1.195},
  url = {https://link.aps.org/doi/10.1103/PhysicsPhysiqueFizika.1.195}
}

```

図 2.1 reference.bib の中にある参考文献の順番を表している図である。“PhysicsPhysiqueFizika.1.195” が “PhysRev.47.777” よりも先に書かれているが、引用順は反対のため出力されたこの PDF 内での参考文献の順番は反対になっている。したがって、参考文献を references.bib に載せる順番はまったく気にしなくてもよいことがいえる。

2.2 参考文献の設定

このテンプレートでは、BibL^AT_EX を採用した。注意点としては、BibT_EX とは異なるという点である。このため、誤って BibT_EX で検索しないように注意すること。図 2.2 に BibL^AT_EX の設定を示した。

このテンプレートでは、参考文献を IEEE スタイルで表示するようにしているが、各指導教官の方々の指示に従い、変更点があるなら指示に従い変更すること。なお、変更する際は公式ドキュメント [5] やその他サイトで検索して調べるように。

```

\usepackage[%
  style=ieee,
  sorting=none,
  doi=false,
  eprint=false,
  url=true%
]{biblatex}
%
```

図 2.2 main_LuaT_EX.tex の BibL^AT_EX の設定を示している。同ファイルの 16 行目にある。

2.3 Bib ファイル編集の注意点

図 2.1 を見ると、title を示す箇所が 2 重波括弧 `{ }` で囲われている。これは通常の波括弧 `{ }` では Bib_{La}T_EX で先頭のみが大文字になる（有名な？）問題があり、回避するには 2 重波括弧 `{ }` で囲う必要があるそう。Bib ファイル内の title を自動で 2 重波括弧 `{ }` にする方法は調べれば直ぐに出るが、面倒なので作成していない。

謝辞

指導教員や研究室のメンバーへの感謝など

参考文献

- [1] T_EXWiki, *LuaTeX-ja*, Accessed on Oct. 18, 2023, 2022. [Online]. Available: <https://texwiki.texjp.org/?LuaTeX-ja>.
- [2] 奥村晴彦, 黒木裕介, [改定第 9 版] *L^AT_EX 2_ε 美文書作成入門*. 技術評論社, Nov. 2023. [Online]. Available: <https://gihyo.jp/book/2023/978-4-297-13889-9>.
- [3] A. Einstein, B. Podolsky, and N. Rosen, “Can Quantum-Mechanical Description of Physical Reality Be Considered Complete?” *Phys. Rev.*, vol. 47, pp. 777–780, 10 May 1935. [Online]. Available: <https://link.aps.org/doi/10.1103/PhysRev.47.777>.
- [4] J. S. Bell, “On the Einstein Podolsky Rosen paradox,” *Physics Physique Fizika*, vol. 1, pp. 195–200, 3 Nov. 1964. [Online]. Available: <https://link.aps.org/doi/10.1103/PhysicsPhysiqueFizika.1.195>.
- [5] P. Kime, M. Wemheuer, and P. Lehman, *The biblatex Package*, Accessed on Oct. 18, 2023, 2022. [Online]. Available: <https://mirrors.ibiblio.org/CTAN/macros/latex/contrib/biblatex/doc/biblatex.pdf>.
- [6] Inkscape, *Inkscape: Draw Freely*, Accessed on Nov. 24, 2023, 2022. [Online]. Available: <https://inkscape.org/>.
- [7] 江尻 開, 電気学会/*IEEE*, 日英両対応 *bst* ファイル, Accessed on Nov. 26, 2023, 2023. [Online]. Available: <https://github.com/ehki/jIEEEtran>.

付録 A

L^AT_EX で図を用いるときのコツ

Power Point で図を作成して PNG や JPG など保存すると、デフォルトでは画像が粗くなる。そこで、付録 A では Power Point で作成した画像が綺麗なまま L^AT_EX で画像を表示させる方法を述べる。

以下、上記の手法の手順を示す。なお、以下のステップ 3 から 7 までの過程は図 A.1 に、出力結果の例は A.2 に示した。

1. 予め、SVG 画像を編集できるソフトをインストールし、使える状態にする（ここでは、Inkscape というよく使われている無料ソフトを用いる [6]）。
2. L^AT_EX の編集ソフトと Power Point, Inkscape の三つを開き、Inkscape は新規ドキュメントを作成し待機する。
3. Power Point で保存したい図を選択し（グループ化しておくで確実）、コピーする。
4. コピーした画像を Inkscape の新規ドキュメントに貼り付ける。
5. Inkscape の「ファイル (F)」の「名前を付けて保存 (A)...」を選択（ショートカットキーは Windows なら「Ctrl+Shift+S」）。
6. 「ファイルの保存先を選択」というポップアップが現れるので、「ファイルの種類 (T):」から PDF を選択して「保存 (S)」をクリックする。
7. 「Portable Document Format」というポップアップが現れ、図のように「テキスト出力オプション」を「フォント埋め込み」にし、「フィルターエフェクトをラスターライズする」の項目を外し、「出力ページサイズ」を「エクスポートオブジェクトのサイズを使用」に変更して「OK(O):」を選択する。
8. 保存した PDF を確認すると、拡大しても画像が粗くないことが分かる。
9. 画像を L^AT_EX で参照すれば無事に図 A.2 のようになる。
10. 次からの画像は、ステップ 3 から順に行なえば良い。

ただし、ここで用いた Inkscape は 2023 年 11 月現在での最新版 (Inkscape1.2) の場合であるため、アップデートなどを経て UI が変わり分かりづらくなる可能性もある。

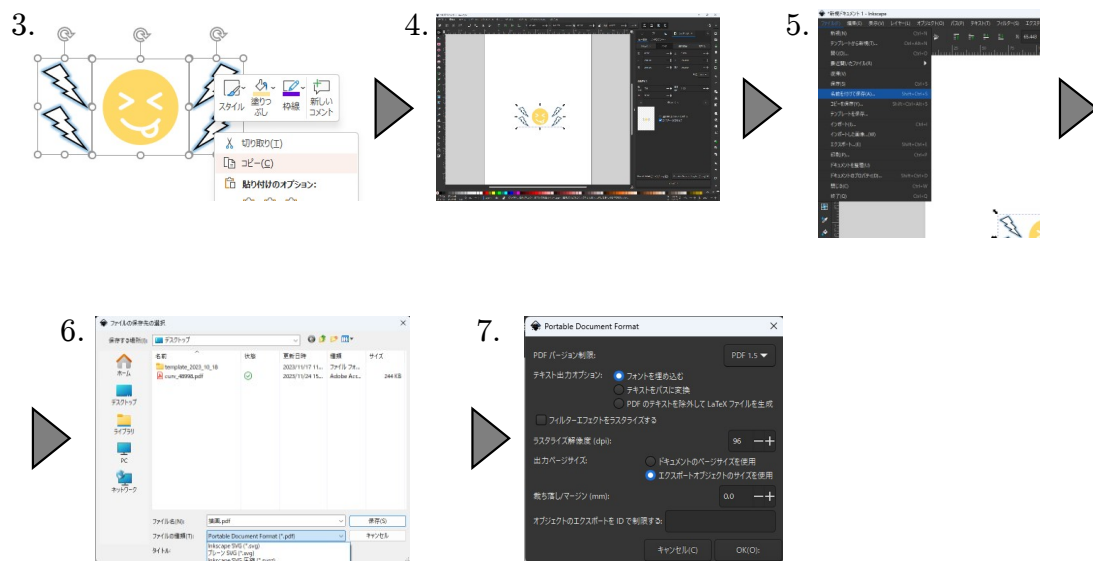


図 A.1 ステップ 3 から 7 までの過程. スクリーンショットのため見づらいが拡大表示するなどして確認して欲しい.



図 A.2 作成した PDF ファイル. 拡大しても粗くならない. Cloud LaTeX 上では日本語名 PDF はエラーになったので, 描画.pdf → picture.pdf に変更.

付録 B

日本語文献を用いる場合

このテンプレートからも分かるように、日本語文献のタイトルは太字となってしまう。これは、日本語の文献が BibLaTeX 側で考慮されていないことによるエラーである。そこで、日本語でも IEEE スタイルで出力できる jIEEE.bst を使えば、タイトルが太字にならない。しかし、標準では jIEEE スタイルは T_EXLive で同梱されていないのでダウンロードする必要がある [7]。以下、jIEEE による参考文献のスタイル変更の方法を記載する。

1. jIEEE を Web サイト [7] からダウンロードして ZIP ファイルを解凍する。
2. jIEEEtran-master/jIEEEtran にある jIEEEtran.bst を作業フォルダ (main_LuaTeX.tex のあるフォルダ) に入れる。
3. main_LuaTeX.tex で次の箇所を編集する。
 - (a) `\usepackage[...]{biblatex}` を `\usepackage{cite}` に変更する。
 - (b) `\addbibresource{references.bib}` を % でコメントアウトする。
 - (c) `\printbibliography[title=参考文献]` を % でコメントアウトする。
 - (d) 直前でコメントアウトした行の次の行で `\bibliography{references}` と記述する。
 - (e) 更に、次の行で `\bibliographystyle{references}` と記述する。
4. 一度 L^AT_EX ファイルをコンパイルする。
5. references.bib で次の箇所を編集する。
 - (a) 作成した PDF で大文字になるはずの箇所が小文字になっている場合、references.bib で該当箇所を 1 重波括弧 `{}` から 2 重波括弧 `{{}}` にする。
(例. `{Accessed on Oct. 18, 2023}` を `{{Accessed on Oct. 18, 2023}}` に変更)
 - (b) 著書の一部を記載している場合、バッククォート二つとダブルクォート二つで書名を囲う。
(例. [改定第 9 版] L^AT_EX 2_ε 美文書作成入門が, “ [改定第 9 版] L^AT_EX 2_ε 美文書作成入門” となるはず)